

道央地域を中心に自動車産業の集積が進んでいる。すでに実績があるトヨタ自動車北海道(苫小牧)、いすゞエンジン製造北海道(同)をはじめ、2007年は苫小牧東部地域(苫東)でトヨタ系の部品メーカー、アイシン北海道が操業。09年には千歳でデンソーエレクトロニクスの半導体工場が稼働する。ただ、自動車産

業への参入を果たした道内企業は一握りで、壁は依然高い。愛知県内のものづくり現場を学ぶため、道内から約30の企業・団体が参加した北海道銀行中小企業人材育成基金の視察事業(10-12日)に同行し、自動車産業参入のヒントを探った。(経済部 瓦木毅彦)

車産業参入 愛知に学べ

先進地視察事業を同行ルポ

苦節20年

「トヨタとの取引で、世界へのパスポートを手に入れることができた」。協和工業(大府市)の鬼頭和工業(大府市)の鬼頭佑治社長の言葉に自信がにじむ。同社にとってトヨタ自動車への納入は二十年越しの目標だった。同社の製品は「ユニバーサルジョイント」。動力伝達の方向を自在に変えられる回転式の継ぎ手だ。通常は鉄を熱してから成型する「熱間鍛造」

「トヨタとの取引で、世界へのパスポートを手に入れることができた」。協和工業(大府市)の鬼頭和工業(大府市)の鬼頭佑治社長の言葉に自信がにじむ。同社にとってトヨタ自動車への納入は二十年越しの目標だった。同社の製品は「ユニバーサルジョイント」。動力伝達の方向を自在に変えられる回転式の継ぎ手だ。通常は鉄を熱してから成型する「熱間鍛造」

独自技術アピール「匠」育成に力



視察者にジョイント部品を説明する協和工業の鬼頭佑治社長

で製造するが、同社は常温のまま高圧をかける独自の「冷間鍛造製法」を開発。金属の組織を壊さないため、精度や耐久性は大きく向上した。一九七九年に製造を始め、ほとんくしてススキやタイハツ工業などの軽自動車に採用された。だが、系列の壁にも阻まれ、トヨタなど大手への参入の道は険しかった。

生涯現役

国内の全自動車メーカー

「に専任工作機械を納入する西島(豊橋市)。本社工場のクリーンルームで、兵藤勝哉さん(50)がひとときをきげきと立ち働いていた。工作機械の心臓部であるスピンドル(主軸)を加工する。砥石で削り、千分の一単位の調整を手作業で行う「神業」の持ち主だ。製造部長を約二十年務めた後、最前線に復帰した。現在は従業員百四十五人のうち、六十歳以上が二十人、七十歳以上も六人いる。「技能という財産を身につけている熟練工は会社の宝」(西島篤師社長)との考えから、同社は定年制を設けていない。

技能五輪

静岡県沼津市で十一月、日本で二十二年ぶりとなる「第三十九回技能五輪国際大会」が開かれ

「鋭」を大会へ送り出す。現在は三十三人が特別コースで訓練中。特注の青いポロシャツは訓練生の証だ。卒業後は職場の中核として期待され、身につけた技術を後進に指導する役割も担う。

萩野幸一社長は「五輪参加は人材育成の柱」と言い切る。今大会では初めて、海外工場所属の社員が出場。このうちタイ代表のCNC旋盤選手は銀メダルを手にした。デンソーはグループ従業員十一万人のうち海外在住者が47%を占める。世界各国で効率的に工場を運営するには、海外拠点の自立が欠かせない。

た。二年に一度の国際大会で、四十六の国・地域から八百十三人が参加。日本は最多となる十六個の金メダルを獲得し、ホスト国としての面目を保った。

自動車部品国内最大手のデンソー(刈谷市)は七一年のスペイン大会から従業員を派遣している。今回は「抜き型」「移動式ロボット」の二部門で金メダルを獲得した。これで通算二十二個。銀メダルも二個。銅メダルも二個。銅を含めたメダル獲得率は78%にも達する。そんな若手の匠たちを育成しているのが、デンソー技術センター(安城市)が運営する「デンソー工業技術短期大学校」だ。

工業高校課程など三コースの修了者のうち、特に優秀と見込まれた「精